

## ホウ素欠乏による マンゴーの果実障害とその対策

マンゴーの施設栽培が九州・沖縄地方を中心に増えていますが、地域によっては、果実の背部が凹み商品性を大きく損なう障害が発生し問題になっています。本障害は、野菜等の他作物の事例からカルシウムまたはホウ素の欠乏が考えられますが、鹿児島県農業開発総合センターでは、ホウ素の花穂への散布が、この障害を軽減することを明らかにしたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 本障害は、幼果期に果実内部がしみ様に褐変し、肥大とともに果実表面に凹みを生じるもので、果実の背部の果柄に近い部位に特異的に発生するのが特徴です（写真）。
2. 塩化カルシウム溶液（0.3%）をマンゴー「アーウィン」の葉面または花穂に散布しても、葉や幼果中のカルシウム濃度は高くなり、障害の軽減効果はありません。
3. ホウ砂溶液をマンゴー「アーウィン」の花穂に散布すると、幼果のホウ素含量が高くなり、障害も軽減することから、幼果期のホウ素欠乏が障害発生に関与していると考えられます。
4. 本障害は、ホウ砂溶液（0.2%）を開花終期（開花がほぼ終了し、花穂に2mm程度の幼果が多数着果した時期）の花穂へ1回散布することにより大きく軽減できます。



写真 マンゴーの果実障害（左：軽度、右：重度）

### ☆ 活用面での留意点

1. ホウ砂は水に溶けにくいので、透明になるまで十分にタンク内で攪拌するか、必要量を60℃程度の湯に溶かしてから希釈します。
2. ホウ素は過剰障害が発生しやすいので、溶液の濃度が過剰にならないように注意します。
3. 詳細については、鹿児島県農業開発総合センター 果樹部（電話：0994-32-0179）にお問い合わせください。